

## 女人禁制

奈良県と県境の京都府南部の田舎の小さな集落から、私は担任の強い勧めもあり高校進学を機にあこがれの京都市内での寮生活を始めた。進学した高校は東寺の境内にあり、真言宗の学校法人が経営していた宗教色の強い高校だった。真言宗と言えば空海(弘法大師)、総本山は高野山である。毎年夏休みに入ると大学受験希望者は、高野山の国宝級の施設を使つての学力強化合宿(5泊6日)に参加させられた。受験科目の授業にはほとんど身が入らなかったが、4時間あった宗教の授業には救われ、弘法大師、高野山、金剛峯寺などについて興味深く学んだ記憶がある。弘法大師の誕生日(青葉祭り)は今でも覚えている(笑)。

高野山は弘法大師が816年(弘仁7年)に密教の道場として開き、修行僧が心乱さず清浄な修行に打ち込めるようにと「女人禁制」としたために、その後女性の参拝は認められなかった。この女人禁制には様々な出来事があり、女性たちは高野山の代わりに「女人高野」として奈良県の室生寺などを参拝していたという記録もある。その約千年後、明治維新の流れの中で1872年(明治5年)に太政官布告により長い歴史の女人禁制は廃止となり、翌年からは多くの女性参拝者が訪れるようになったと言う。

女人禁制と言えば、日本相撲協会は女性が土俵に上がることを頑なに禁止している。そもそも相撲協会生誕の大正14年から性別を問わず力士や行司などの関係者以外は土俵に上がることは許されなかった。しかし昭和43年に「内閣総理大臣杯」が創設されてから政治家(総理大臣あるいは代理人)も土俵に上がれることになったが、女人禁制は今も重い伝統として守られている。太田房江元知事は大阪府の女性知事として就任、3月の春場所の「大阪府知事賞」を土俵上で授与したいと強く要望したが実現はしなかった。

さて、高市早苗氏はこのたび女性初の内閣総理大臣に就任したが、今後の政局動向や政治家としての手腕にはもちろん大きな期待や興味があるが、大相撲の千秋楽の「内閣総理大臣杯」を土俵上で優勝力士に授与することができるのか、これも少し興味あるところだ。彼女の性格からいえば当然相撲協会に要望するだろうと言う意見もあれば、伝統を重んじる人だから辞退し代理人を立てるのではないかととも言われている。現状維持も新たな対応もそれぞれの立場があり、私も明確な意見はないが、少なくとも橋下元大阪府知事が、日本の伝統芸能の「文楽」を否定し補助金削減に動いたような文化・伝統を軽んじるような話にならないことを願いたい。

いよいよ11月には豊翔高等学院の文化祭「豊翔フェスタ」が開催される。私も「模擬店」を出店する予定だ。丹羽自家製の「京風餃子」をお楽しみに！

(丹羽 豊)